

7 日 獣 発 第 151 号
令和 7 年 7 月 23 日

地方獣医師会会長 各位

公益社団法人 日本獣医師会
会 長 藏 内 勇 夫
(公印及び契印の押印は省略)

吸血昆虫対策の徹底について

このことについて、令和 7 年 7 月 15 日付け 7 消安第 2454 号により農林水産省消費・安全局動物衛生課長から別紙のとおり通知がありました。

ランピースキン病（以下「本病」という。）については、昨年 11 月に我が国において初めて発生が確認されたことを踏まえ、令和 7 年 2 月 13 日付け 6 日獣発第 331 号により、吸血昆虫の対策の強化をお願いしているところです。

このたびの通知は、昨年 12 月 26 日の発生を最後に、国内における新規の発生農場は確認されていませんが、サシバエ等の活動が活発な季節であり、また、過去に発生がなかったイタリア及びフランスにおいても本病の発生が確認されるなど、引き続き、本病に対する警戒が必要であることについて、周知及び指導を依頼されたものです。

つきましては、貴会会員に通知方よろしく申し上げます。

本件のお問合せ先

公益社団法人 日本獣医師会

事業担当：栞野、松岡

TEL 03-3475-1601

E-mail kuwano@nichiju.or.jp

(別紙)

7 消 安 第 2454 号
令和 7 年 7 月 15 日

別記団体の長 殿

農林水産省消費・安全局
動 物 衛 生 課 長

吸血昆虫対策の徹底について

日頃より、家畜衛生の推進に御理解と御協力をいただき感謝申し上げます。
このことについて、別添のとおり都道府県家畜衛生主務部長宛て通知しました
ので、御了知の上、貴職におかれましては、会員各位に周知いただきますよう
御協力をお願いします。

別記

一般社団法人 J ミルク
一般社団法人 全国酪農協会
一般社団法人 中央酪農会議
全国酪農業協同組合連合会
一般社団法人 日本乳業協会
全国農協乳業協会
一般社団法人 酪農ヘルパー全国協会
全国乳業協同組合連合会
一般社団法人 日本ホルスタイン登録協会
日本ジャージー登録協会
一般社団法人 日本短角種登録協会
一般社団法人 日本あか牛登録協会
公益社団法人 全国和牛登録協会
全国肉牛事業協同組合
一般社団法人 全国肉用牛振興基金協会
一般社団法人 日本家畜人工授精師協会
一般社団法人 日本草地畜産種子協会
一般社団法人 家畜改良事業団
公益社団法人 日本装蹄協会
一般社団法人 全国畜産配合飼料価格安定基金
一般社団法人 全国配合飼料供給安定基金
一般社団法人 全日本配合飼料価格・畜産安定基金

一般社団法人 日本科学飼料協会
公益社団法人 配合飼料供給安定機構
飼料輸出入協議会
一般社団法人 日本家畜商協会
一般社団法人 日本畜産副産物協会
公益社団法人 全国農業共済協会
全国開拓農業協同組合連合会
全国畜産農業協同組合連合会
公益社団法人中央畜産会
全国農業協同組合中央会
全国農業協同組合連合会
一般社団法人 全国動物薬品器材協会
一般社団法人 日本家畜輸出入協議会
公益社団法人 日本獣医師会
公益社団法人 日本動物用医薬品協会
一般財団法人 畜産環境整備機構
協同組合日本飼料工業会
公益社団法人畜産技術協会
一般社団法人 全国畜産経営安定基金協会

写

7 消 安 第 2 4 5 4 号
令 和 7 年 7 月 1 5 日

都道府県家畜衛生主務部長 殿

農林水産省消費・安全局
動 物 衛 生 課 長

吸血昆虫対策の徹底について

昨年 11 月に我が国において初めてランピースキン病（以下「本病」という。）の発生が確認されました。本病は、主にサシバエ等の吸血昆虫により媒介される疾病であることから、「春先に向けた吸血昆虫対策の強化について」（令和 7 年 2 月 7 日付け 6 消安第 6558 号農林水産省消費・安全局動物衛生課長通知。以下「課長通知」という。）により、吸血昆虫対策の強化をお願いしているところです。昨年 12 月 26 日の発生を最後に、国内における新規の発生農場は確認されていませんが、サシバエ等の活動が活発な季節であり、また、過去に発生のなかったイタリア及びフランスにおいても本病の発生が確認されるなど、引き続き、本病に対する警戒が必要です。

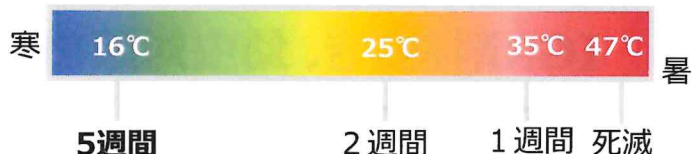
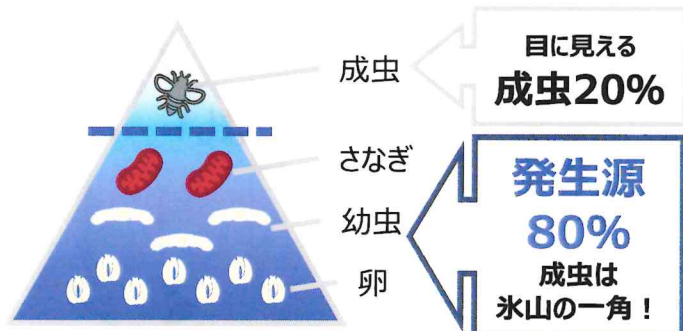
つきましては、課長通知の記に示す対策について徹底するよう、改めて生産者及び関係団体への周知及び指導方お願いします。

春先に向けたサシバエ対策で 牛を病気・ストレスから守りましょう！

はて？ 冬季のサシバエ対策？ 春・秋よりサシバエ見ないけど・・・

成虫がいる＝幼虫はもっと潜んでいる

温度とサシバエが卵から成虫になるまでの
発育日数の関係



冬季は気温が低いので、発育速度が遅い！
幼虫対策をすれば、殺虫剤を撒く回数も減少！

九州の冬季サシバエ対策は、寒いうちから！

スタートが遅れると、ハエの数は爆発的に増加します・・・

1. 幼虫対策は、堆肥等の管理とIGR剤の散布！



堆肥の切り返しは
隅々まで！

牛舎隅など牛が踏まない・糞の取り残しがある場所、
カーペンなど子牛のいる牛床にIGR剤を散布！

つなぎ牛舎は
バークリーナーへ散布！

2. 成虫対策は、防虫ネットや殺虫剤ローテーションで！



地面や床から2 mは防虫ネットで
覆えるようにしましょう！
隙間や穴がないか確認を！



殺虫剤は
サシバエが飛ぶより
上を狙って噴霧！



殺虫剤はローテーションを！
噴霧量が十分か確認！

3. 対策は地域ぐるみで！ 関係業者も一緒に！

サシバエ対策、ここをチェック！

- 1 堆肥・敷料・残餌はしっかり管理できている！
- ・切り返し等により堆肥発酵時の中心温度が65度になることを確認
 - ・牛床は清潔に保たれ、汚れた敷料や残餌は片付いている

いいえ

IGR剤を撒き、幼虫対策をしている！

- ・バースクレーパーが通る前にバークリーナーに散布
- ・牛の踏まない所を中心に散布（特に牛舎隅など）

いいえ

サシバエ幼虫は、堆肥等の管理＋IGR剤で限りなく減らそう

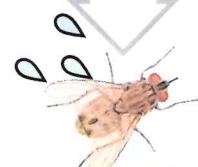
サシバエの成虫 1 匹は、生涯600個もの卵を産む。冬の成虫 1 匹は来シーズンの 1 万匹に相当すると言われるほど、冬季対策が重要。サシバエの活動が低下している冬季だからこそ、地域ぐるみで幼虫対策をしましょう！

すばらしい！

はい

その調子！

はい



子孫残せイ...

- 2 牛舎内でハエ成虫をほぼ見ない

いいえ

サシバエ成虫を、牛舎内で見かけたら、対策徹底！

サシバエは農場内でも発生するし、他所からも飛んだり運ばれたりしてやってくる。地域ぐるみでの対策が重要。サシバエの持ち出しや持ち込みがないよう農場出入り業者にも車内の殺虫をお願いしましょう。

みんなのお手本！

はい



コエハ住対イ〜

サシバエ成虫対策 3つのポイント

1. 殺虫剤はローテーション

同じ殺虫剤を連用していると、生き延びたサシバエが耐性を持つことがある。殺虫剤が効きにくくなる前に、系統が異なる殺虫剤とローテーションで回していこう。十分な濃度・噴霧量で散布しているかも要チェック。

2. 防虫ネットの設置

地面から2mの高さまで床から天井に向けて設置。穴が開いてないか定期的にチェック。

3. 下草刈りや防草シートの設置

サシバエが日中休息する牛舎周辺の下草を刈ろう。防草シート設置も効果的。

ランピースキン病の感染拡大防止！

車両や人による

農場から農場への伝播を防止しましょう

ランピースキン病は、主にサシバ工等による機械的伝播により感染が拡大しますが、車両や人もウイルスを運ぶ可能性があります。

車両がウイルスを運ばないために

農場の自家用車、集乳車、飼料運搬車、獣医師、人工授精師、薬品・資材業者、家畜運搬業者、関係団体など農場に出入りする全ての車両

- 農場に出入りする**全ての車両**は**洗浄・消毒、殺虫**を徹底！
- **車内に入り込んだサシバ工等**も、確実に殺虫！

特に寒い時期、サシバ工等は温かい車両に集まりやすく、車内にも侵入します。

車体に
集まったハエ



資材（牧草ロールや敷料など）にもサシバ工等が入り込む可能性があるため、搬入時確認！

人がウイルスを運ばないために

特に獣医師、人工授精師等、牛に直接接触する者

- 農場ごとに**専用の衣服、長靴（ブーツカバー）**交換の徹底！
- **注射針、人工授精用器具等**は確実に一頭ごとに交換又は消毒！
- **聴診器等、皮膚に接触する器具**も適切に消毒！

農場から農場への感染拡大防止！

